

リピートビジネスサポートツール
お客様情報管理ソフト

インストールマニュアル

Windows Server 版

インストール前にお読みください

「お客様情報管理ソフト」のインストールでは、事前にご利用になるパソコンの環境を確認する必要があります。
下記項目をご確認いただいたうえで、インストール作業を実施するようにしてください。

本ガイドはWindows Server 2016/2012/2012 R2 が対象となっております。

(確認の方法は下記をご確認ください)

インストール前にご確認いただきたい事項1

ウィルス対策ソフトのインストール状況の確認

ウィルスソフトが導入されている場合は、インストールが正常に行われなかったことがあります。インストール時には、一時的にウィルスソフトを無効にして、インストール後に元に戻すことをおすすめします。

※ウィルスソフトを無効にする方法については、各ソフトウェア会社によって異なります。
詳細はソフトウェア会社にご確認ください。

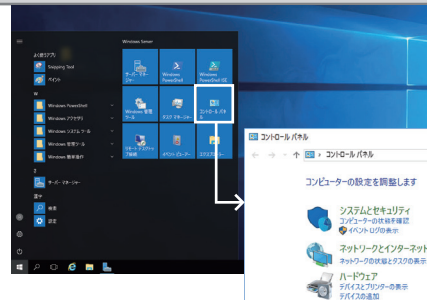
主な市販のウィルス対策ソフト

- ウィルスバスター
- Mcfee
- ノートン アンチウィルス
- など

利用しているユーザーの管理者権限(ユーザー権限)の確認

パソコンにソフトをインストールする際は、管理者権限をもったユーザーで作業をする必要があります。
下の手順で利用しているユーザーの権限を確認し、管理者権限でインストールするようにしてください。

確認方法



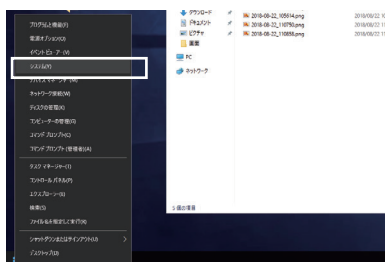
[スタート]>[コントロールパネル]
を開き、[アカウントの種類の変更]
を開きます。



現在ログインしているユーザー
が、管理者かどうかを確認します。

管理者でない場合は、管理権限のあるユーザーでログインし直してからインストールしてください。

OSの確認方法



[スタート]を右クリックして[システム]
を選択します。



表示された画面の [Windows の
エディション]の項目で、
『Windows Server 2016』
または
『Windows Server 2012』
『Windows Server 2012 R2』
と表示されていることをご確認ください。

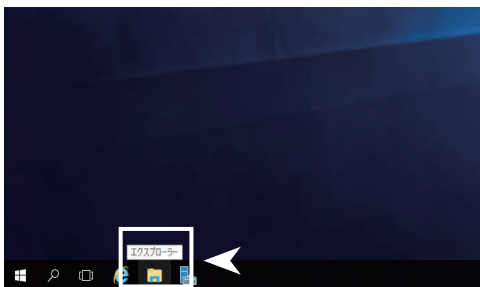
インストール前にお読みください

□ ドライブの圧縮確認と設定

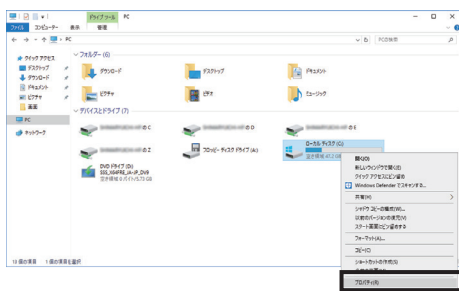
インストール先(通常Cドライブ)が圧縮されていると、「お客様情報管理ソフト」のインストール中にエラーが発生いたします。

インストール前に、以下の手順で、Cドライブが圧縮されていないことの確認、あるいは圧縮設定の解除をしていただきますようお願いいたします。

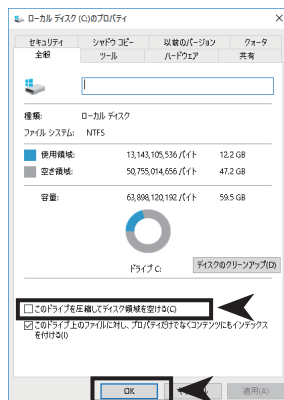
確認・設定方法



画面下のタスクバーのエクスプローラーをクリックします。



[OS(C:)]を右クリック>[プロパティ]をクリックします。



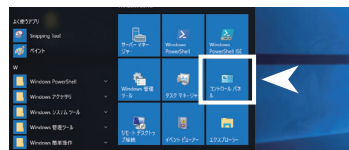
[ドライブを圧縮してディスク領域を空ける]にチェックが入っていないことを確認します。
入っていた場合は、チェックをはずし、[OK]をクリックします。

□ ユーザーアカウント制御(UAC)の設定

ユーザーアカウント制御(以下 UAC)を有効のまま、「お客様情報管理ソフト」のインストールを実行しますと、インストール途中でエラーになる場合がございます。

インストール前に、以下の設定を必ずしていただきますよう、お願いいたします。

確認・設定方法



[スタート]>[コントロールパネル]をクリックします。



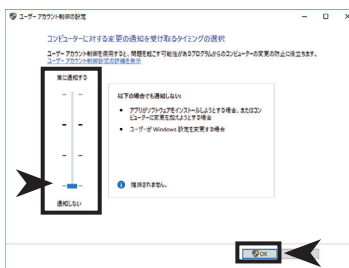
[ユーザーアカウント]をクリックします。



[ユーザーアカウント]をクリックします。



[ユーザーアカウント制御設定の変更]をクリックします。



ユーザーアカウント制御(UAC)の設定で、レベルを「通知しない」に変更し、[OK]をクリックします。

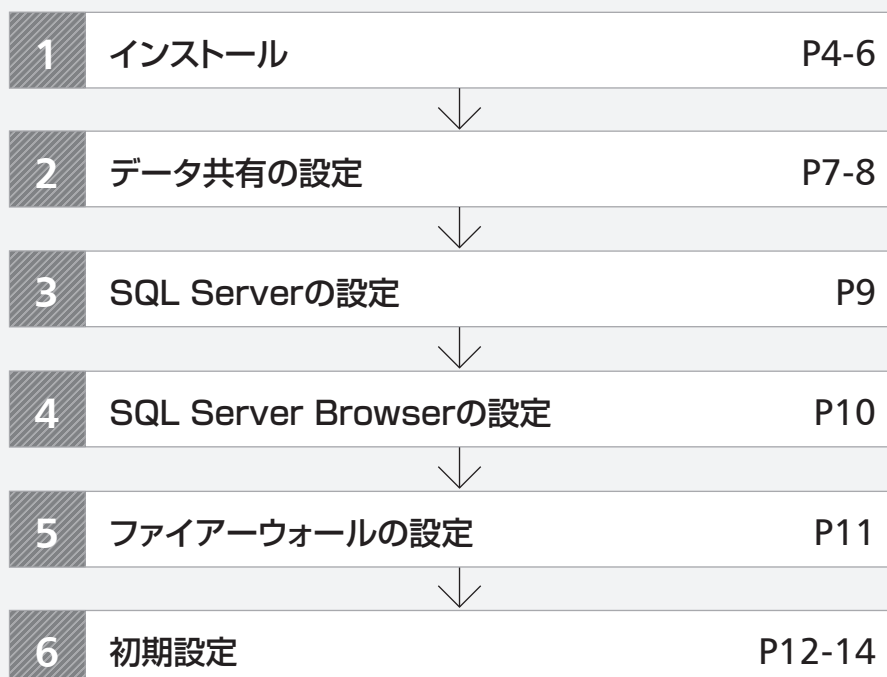


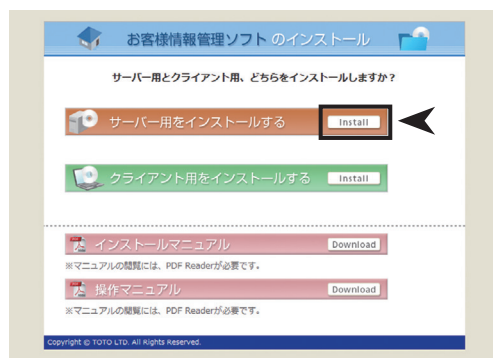
UACの設定が終了したら、パソコンを再起動してください。
※UACの設定は、パソコンを再起動しないと有効になりません。

UACが有効だった場合、インストールが終わりましたら、UACの設定を有効にもどしてください。

Windows Server 版

作業の流れ





1-1 インストールCDをパソコンのドライブに入れます。

お客様情報管理ソフトを使用するには、パソコンにソフトウェアをインストールする必要があります。

CD挿入後に左のような画面が開きます。

⚠ インストール時は、他のソフトウェアを閉じてください。

事前に全てのソフトウェアを閉じた状態でインストールを実施してください。開いたソフトウェアがある状態でインストールを行うと、不具合が発生する場合がありますのでご注意ください。

⚠ CDを入れても自動的に起動しない場合は。

「コンピューター」から該当のCDドライブアイコンをダブルクリックして開き、「Setup」フォルダの中にある「installer.hta」を起動させてください。

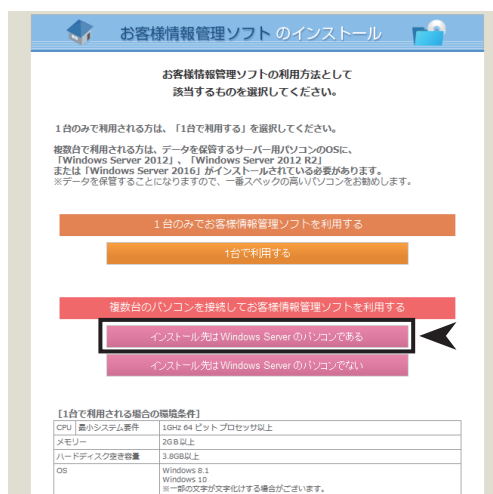
⚠ 複数台で利用される場合の注意事項

2台以上のパソコンをネットワークで接続して利用する場合、データを保存するサーバー専用パソコンには、OSとして「Windows Server 2016 (2012/2012 R2)」であるパソコン(ライセンスを含みます)が必要になります。

Microsoftとのソフトウェア使用許諾契約に違反となるため、サーバー専用パソコンに、Windows 8.1/10といった、クライアントOSがインストールされたパソコンを使用することはできません。

⚠ サーバ用パソコンに旧バージョンのお客様情報管理ソフトがインストールされている場合

旧バージョンのお客様情報管理ソフトが既にインストールされている場合は、事前にアンインストールしておく必要があります。アンインストールの際には、必ずデータのバックアップを実施してから、アンインストールを実施するようにしてください。



1-2 Windows Server へのインストールは、複数台の利用が前提となります。

お客様情報管理ソフトをインストールしようとしているパソコンが、データを保管するサーバー専用パソコンであることと、OSとして

- ・ Windows Server 2016
- ・ Windows Server 2012
- ・ Windows Server 2012 R2

のいずれかがインストールされていることが前提になりますので、条件に合致しているかを確認してください。

合致している場合は、[インストール先は Windows Server である]をクリックしてください。

1-3 クライアント用パソコンのCALに関する注意事項を確認します。

サーバー用パソコン接続してお客様情報管理ソフトを利用するクライアント用パソコンにもCAL(キヤル)と呼ばれるライセンスが必要になります。

利用台数分のCALをお持ちの場合は、[確認して次へ]をクリックしてください。



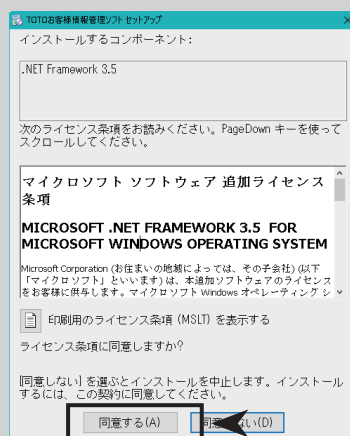
お客様情報管理ソフトに必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、インストールを求められる場合があります。

↓ こちらの画面が出た場合



上の画面が出たら、**【同意する】**のボタンをクリックします。

「SQL Server 2016 Express Edition」がインストールされていなかった場合、上記の画面が表示されます。同意するボタンをクリックしてください。

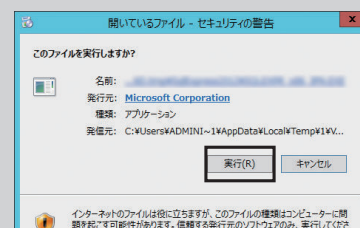


上の画面が出たら、**【同意する】**のボタンをクリックします。

「.NET Framework 3.5」がインストールされていなかった場合、上記の画面が表示されます。同意するボタンをクリックしてください。

! アクセス確認の画面が表示された場合は。

確認画面が出たら、**【実行】**をクリックして、作業を進めてください。



※「SQL Server 2016 Express Edition」「.NET Framework 3.5」のインストールには時間がかかる場合がありますのでご注意ください。

! .NET Frameworkがインストールできない場合は。

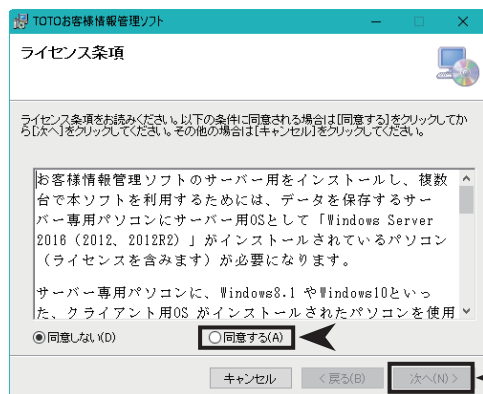
[スタート]>[サーバーマネージャー]より「役割と機能の追加」をクリックします。

「開始する前」画面で「次へ」をクリックします。

「インストール種類」画面で「役割ベースまたは機能ベースのインストール」にチェックがついていることを確認して「次へ」をクリックします。

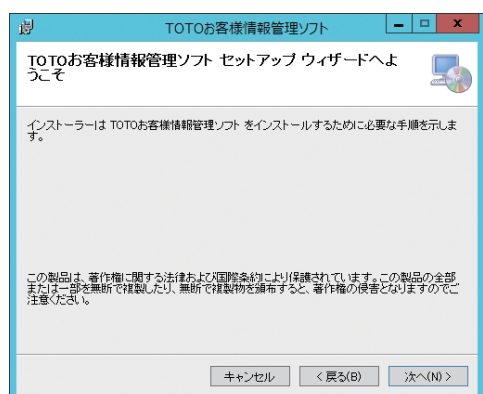
「対象サーバーの選択」画面で「サーバープールからサーバーを選択」にチェックがついていることを確認して「次へ」をクリックします。

次の画面で「.NET Framework 3.5」を選択してインストールします。



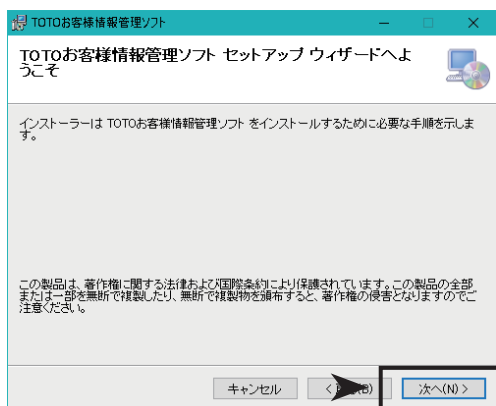
1-4 ライセンス条項に同意したうえで、【次へ】ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。

ライセンス条項に同意いただける場合にのみ、**【同意する】**にチェックを入れてください。チェックをすると、**【次へ】**ボタンがクリックできるようになりますので、クリックしてインストールを行ってください。



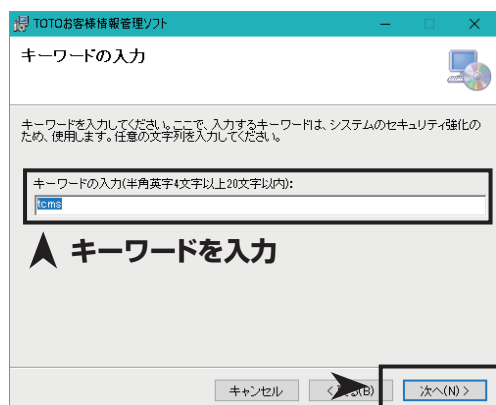
1-5 お客様情報管理ソフトのインストール画面が表示されます。

こちらの画面が表示されたら**【1-6】**にお進みください。



1-6 お客様情報管理ソフトのセットアップを開始します。

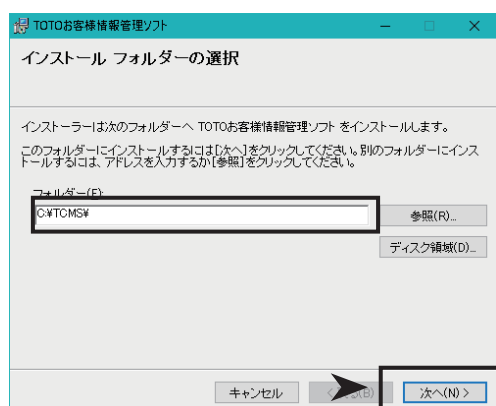
セットアップウィザード開始の画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックしてください。



1-7 お客様情報管理ソフトのセットアップに使用するキーワードを設定します。

キーワードは半角英字4文字以上20文字以内で設定してください。

※ 数字は使用不可です。



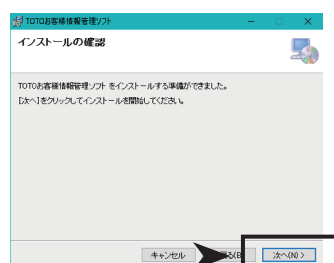
1-8 インストール先を指定します。

インストール先を指定する画面が出てきます。インストール先はこのままにしておくことをおすすめします。(本マニュアルにおいて、以後の説明は、この設定を変えない状態でインストールしていることを前提とします。) このまま、[次へ]をクリックします。



特に指定がない場合はインストール先は変更しないでください。

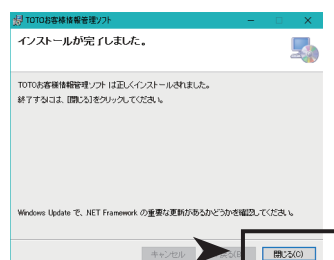
インストール先を変更しても、インストールに影響ありませんが、今後説明する際のファイルやフォルダの場所は、ご自身のインストールした場所を元にお探してください。



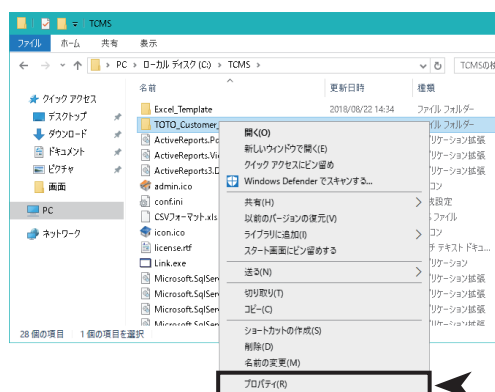
1-9 インストールを実施します。

案内に従って[次へ] ボタンをクリックしてください。

インストール完了画面が表示されたら[閉じる] ボタンをクリックしてインストールウィザードを終了してください。



UAC (p2に掲載) が有効だった場合、インストールが完了したら、UACの設定を有効にもどし、再起動してから以降の作業を行ってください。

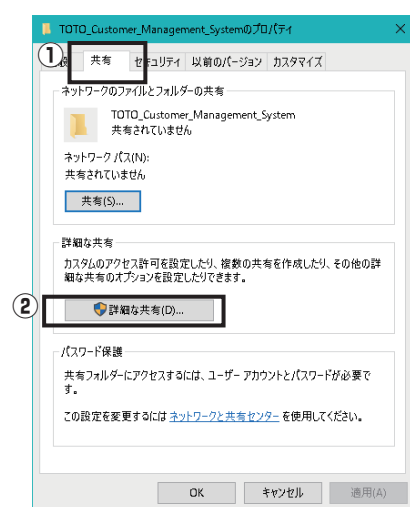


2-1 共有設定に必要なフォルダを探し、プロパティを開きます。

インストール先フォルダ(通常C:¥TCMS)に[TOTO_Customer_Management_System]フォルダがありますので、このフォルダを**右クリック**します。
 注)左クリックではなく右クリックです。
 出てきたサブメニュー画面の中にある[プロパティ]をクリックするとプロパティ画面が表示されます。

← 該当フォルダを探す方法

- ①PC(マイコンピュータ)を開く
- ②C:ドライブ(通常はハードディスクのアイコンでファイル名の最後に(C:))と記してあります)を開く。
- ③中にある[TCMS]フォルダを開く
- ④TOTO_Customer_Management_Systemフォルダが中にあります。



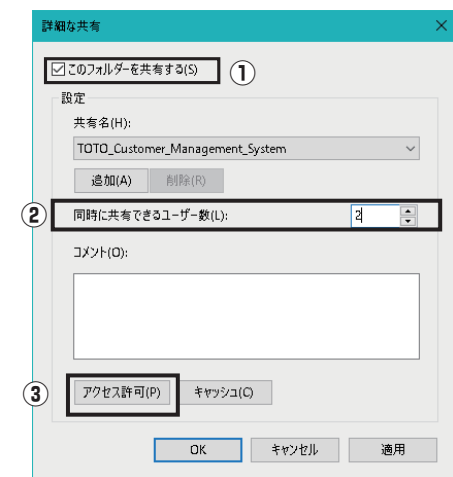
2-2 共有設定を有効にします。

- ①まず、上部の[共有]タブをクリックします。
- ②[詳細な共有] ボタンをクリックします。

共有アクセス許可のウィンドウが出てきます。

⚠ 共有設定をしないと、ファイルがアップロードされません。

この設定では、会社ロゴや工事関連ファイルが保存されるフォルダに共有設定を行います。共有設定を有効にしないと、作成したデータが正しく保存できなくなりますので、操作手順に従い正しく実行してください。



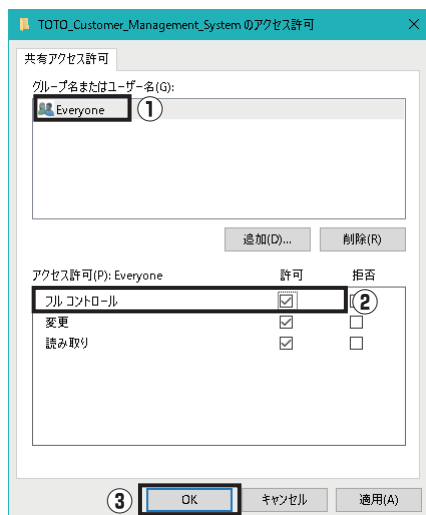
2-3 詳細な共有画面で、フォルダの共有設定をします。

以下の順番で操作を進めてください。

- ①「このフォルダを共有する」にチェックを入れます。
- ②「同時に共有できるユーザー数」に共有するパソコンの台数を入力します。
- ③[アクセス許可] ボタンをクリックします。

⚠ 共有せずに1台のみで使用する場合

インストール時に「1台で使用」を選択してインストールされた場合は、ユーザー数には「1」と入力してください。

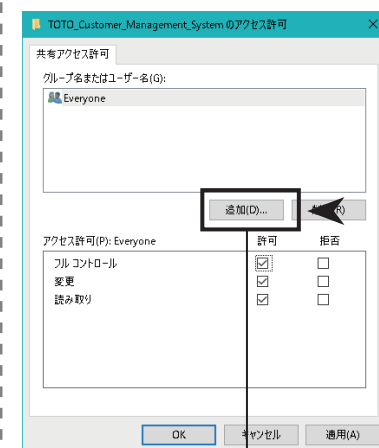


2-4 全ての操作ができるように設定します。

- ① グループ名またはユーザー名の欄が「Everyone」になっていることを確認します。
- ② 共有アクセス許可の画面で、フルコントロールの「許可」の部分にチェックを入れます。
- ③ [OK] ボタンをクリックします。

⚠ グループ名またはユーザー名が「Everyone」になっていない場合。

「グループ名またはユーザー名」の欄が「Everyone」になっていない場合は、下図の矢印の「追加」ボタンをクリックして「Everyone」を追加する用に使ってください。
左の手順の②以降の操作は、「Everyone」を追加してから行うようにしてください。

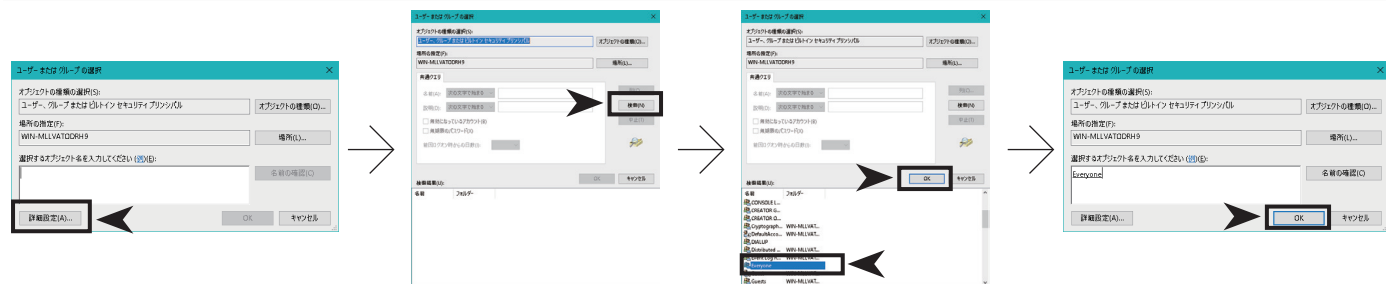


2-5 共有設定を終了させます。

最後に「閉じる」ボタンをクリックするとウィンドウが閉じます。
これで、共有設定が終了します。



「グループ名またはユーザー名」の欄に「Everyone」を追加する方法

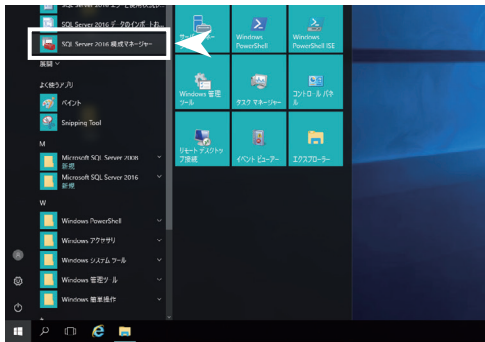


ユーザーまたはグループの選択画面で、左下の「詳細設定」ボタンをクリックします。

矢印にある「検索」ボタンをクリックします。

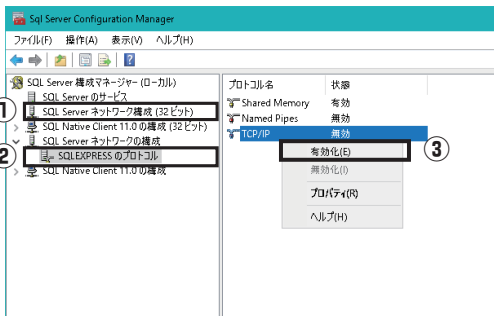
下の欄に検索結果が表示されますので、「Everyone」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

続けて「OK」ボタンをクリックすると、【2-5】の画面のように「Everyone」と表示されるようになりますので、続きの作業を行ってください。



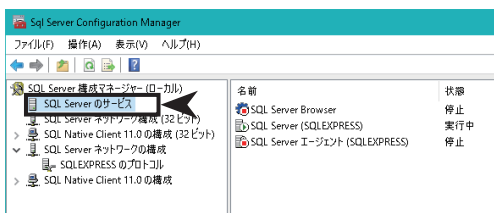
3-1 【SQL Server構成マネージャー】を開きます。

アプリメニュー表示し、【SQL Server構成マネージャー】をクリックします。



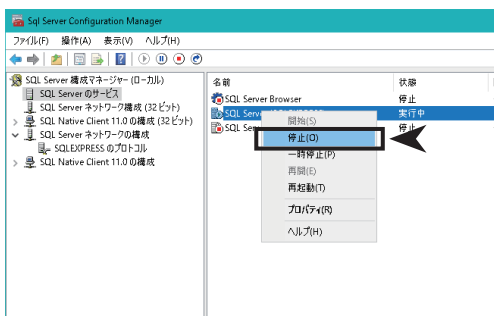
3-2 TCP/IPのプロトコルを有効化します。

①SQL Serverネットワーク構成をクリック
②「SQLEXPRESSのプロトコル」をクリック
③「TCP/IP」のプロトコルが表示されるので、右クリックで[有効化]を選択を実施します。



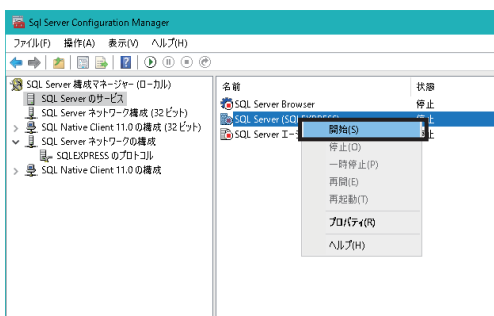
3-3 【SQL Serverのサービス】をクリックします。

左図矢印にある【SQL Serverのサービス】をクリックしてください。



3-4 SQL Serverのサービスをいったん停止します。

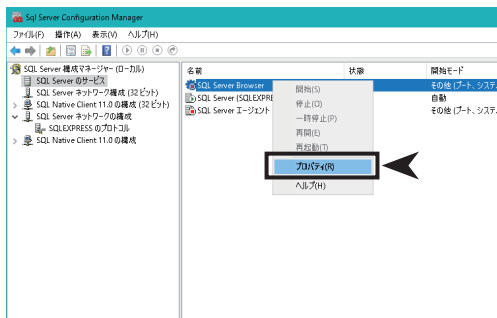
【SQL Server(SQLEXPRESS)】を右クリックして表示されたメニューの中から、【停止】を選択してください。



3-5 SQL Serverのサービスを再開させます。

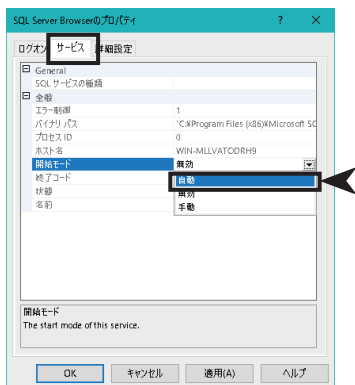
続いて、先程と同様方法で表示されたメニューの中から、【開始】を選択してください。

これで、[3] SQL Serverの設定は終了です。
続いて、[4] SQL Server Browserの設定を行ってください。



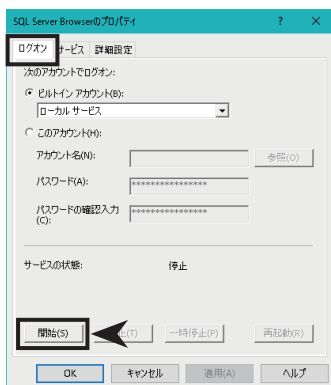
4-1 SQL Server Browserのプロパティを開きます。

SQL Server Browser の場合は、右クリックでメニューを開いたら、[プロパティ]を選択します。



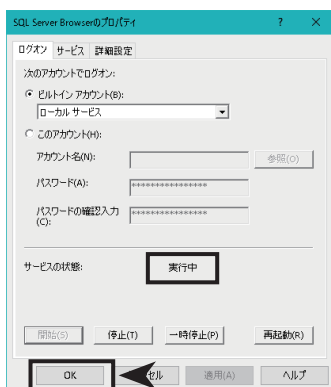
4-2 開始モードを[自動]に変更します。

表示されたプロパティ画面で、「サービス」タブをクリックし、「開始モード」を[自動]に変更し「適用」ボタンをクリックします。



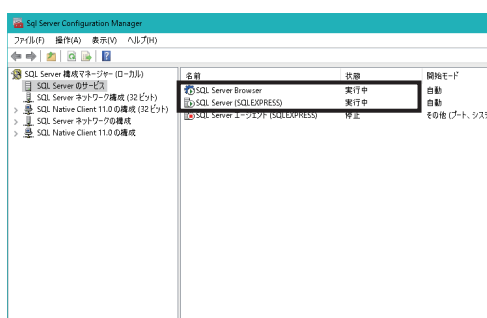
4-3 サービスを開始します。

「ログオン」のタブを選択し、画面左下の[開始]ボタンをクリックします。



4-4 サービスが実行中になったことを確認して画面を閉じます。

サービスの状態が「実行中」になったことを確認したら、[OK]をクリックして画面を閉じます。戻った画面で、「状態」の項目が実行中になっていれば、正しく設定されています。

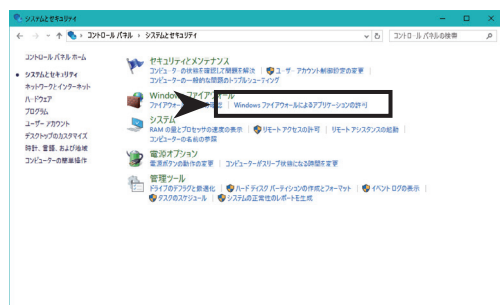


これで、[4] SQL Server Browserの設定は終了です。
続いて、[5] ファイアーウォールの設定を行ってください。



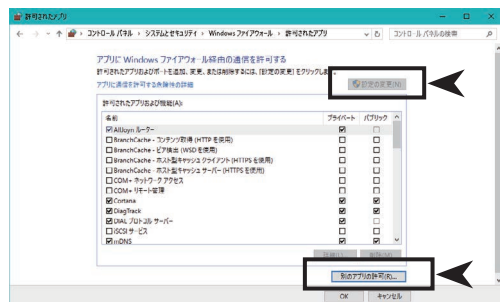
5-1 「システムとセキュリティ」をクリックします。

[スタート]>[コントロールパネル]を開き、その中から、[システムとセキュリティ]をクリックします。



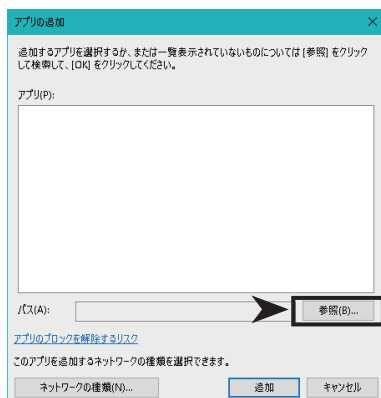
5-2 「Windowsファイアウォールによるアプリケーションの許可」を選択します。

「Windowsファイアウォール」の項目にある「Windowsファイアウォールによるアプリケーションの許可」をクリックします。



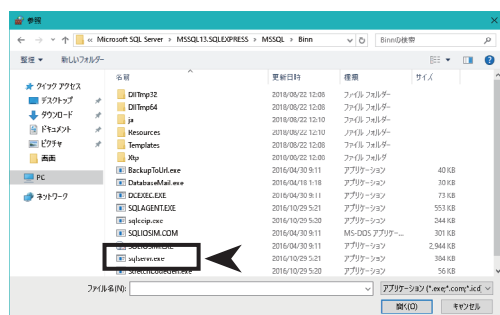
5-3 「別のアプリの許可」をクリックします。

[設定の変更]をクリックした後、[別のアプリの許可]ボタンをクリックします。



5-4 プログラムの追加画面で、[参照]をクリックします。

右下にある[参照]ボタンをクリックします。



5-5 プログラムをファイアウォールの例外に追加します。

以下の順番で、設定をします。

- ① C: > Program Files > Microsoft SQL Server > MSSQL 13.SQLEXPRESS > MSSQL > Binn の順番でフォルダを開いていくと、左の画面が出てきます。
- ② 矢印にある sqlservr.exe を「ダブルクリック」して追加します。
- ③ [追加] ボタンをクリックして【5-3】の画面に戻ります。
- ④ 上記と同じ手順で C: > Program Files (x86) > Microsoft SQL Server > 90 > Shared を開き、その中にある sqlbrowser.exe を「ダブルクリック」して追加します。
- ⑤ 以降、全ての画面で[OK]ボタンをクリックして画面を閉じ、パソコンを再起動します。再起動後、設定は完了していますので、【6-1】に進みください。

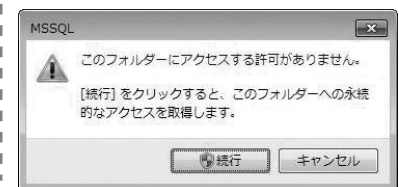
セキュリティソフトをインストールしている場合

セキュリティソフトをインストールしている場合は、セキュリティソフトのファイアウォールの設定が必要な場合がございます。

MS SQL Server 2016をセキュリティソフトのファイアウォールの例外に設定する方法につきましては、セキュリティソフトのメーカーにお問い合わせください。

アクセス許可がないと表示された場合

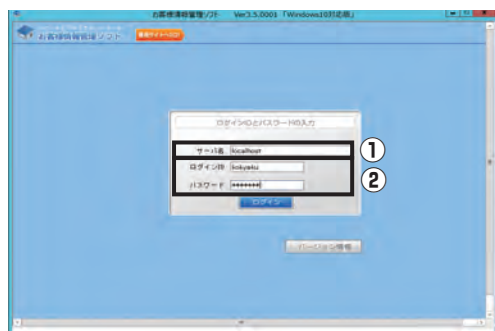
下のような、Microsoft SQL Server フォルダにアクセスすることを確認する画面が表示される場合があります。その場合は、[続行]をクリックして、作業を進めてください。





6-1 デスクトップに作成されたアイコンをダブルクリックします。

左のようなアイコンが表示されていますので、ダブルクリックしてソフトを起動してください。



6-2 各項目に該当する情報を入力していきます。

①サーバーソフトをインストールしたコンピュータ名を入力してください。

※コンピュータ名の確認方法は、最終ページをご確認ください。

②ID/PWそれぞれの欄に[kokyaku]と入力してください。

[ログインID]kokyaku

[パスワード]kokyaku

入力し終わったら[ログイン]ボタンをクリックします。



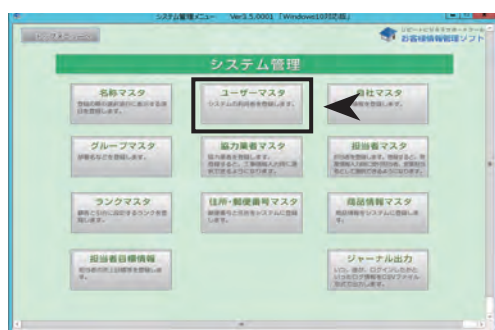
サーバー名の入力、最初の1回のみです。

サーバー名の入力、最初にログインする際の1回のみとなります。2回目以降、項目はあらかじめ表示されるようになります。



6-3 [システム管理]をクリックしてお客様情報管理ソフトを使用する準備をします。

お客様情報管理ソフトを使用するためには、「ユーザ」「グループ」「担当者」の登録が必須になります。



6-4 [ユーザーマスタ]をクリックして、お客様情報管理ソフトを使用するユーザを登録します。

kokyakuユーザでは、「システム管理」の機能しか使用できません。

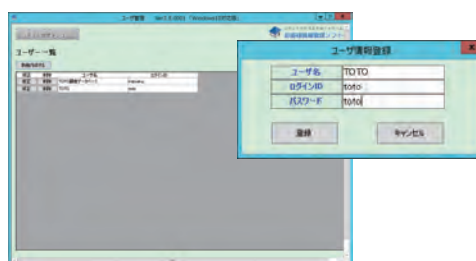
新規でユーザを登録することで、お客様情報管理ソフトの全ての機能を使用することができますようになります。

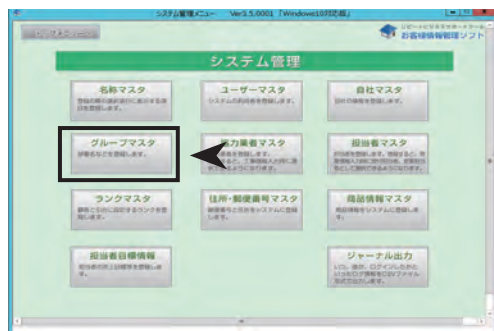


ユーザーの登録方法について。

ユーザーの登録方法につきましては、操作マニュアル[2-2ユーザマスタ管理]を参照してください。

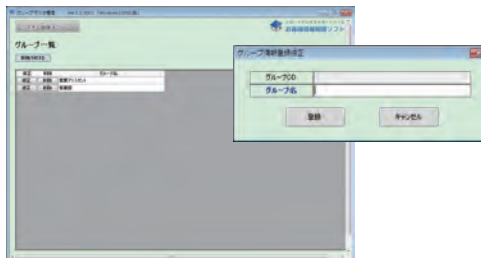
※次回ログイン時は、ここで登録したログインID、パスワードでログインしてください。





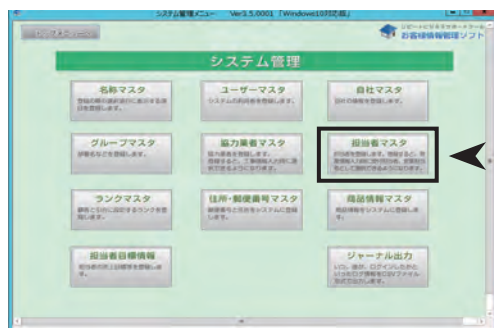
6-5 【グループマスタ】をクリックして、グループ(部署)を登録します。

ここで登録するグループ(部署)は、この後に登録する担当者登録が必要になります。



← グループの登録方法について。

グループの登録方法につきましては、操作マニュアル[2-4グループマスタ管理]を参照してください。



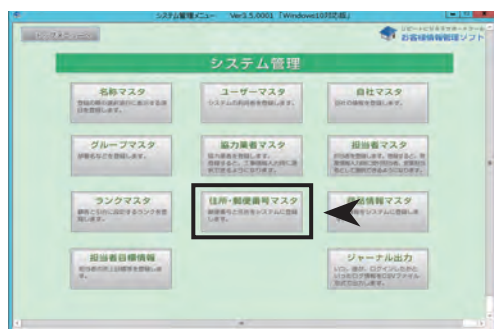
6-6 【担当者マスタ】をクリックして、担当者を登録します。

担当者を登録することにより、営業情報管理の引合情報登録時に、受付担当者、営業担当者を設定することができるようになります。



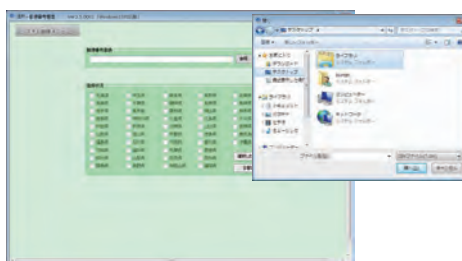
← 担当者の登録方法について。

担当者の登録方法につきましては、操作マニュアル[2-6担当者マスタ管理]を参照してください。



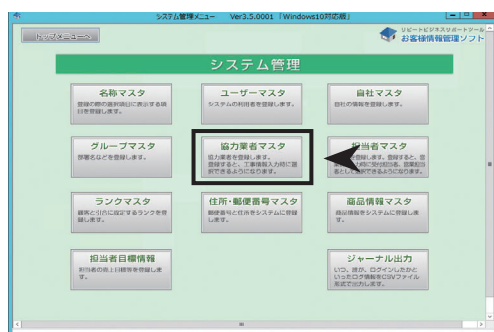
6-7 【住所・郵便番号マスタ】をクリックして住所・郵便番号データを登録します。

住所・郵便番号データを登録することにより、顧客住所や物件住所の入力が容易になります。



← 住所・郵便番号データの登録方法について。

住所・郵便番号データの登録方法につきましては、操作マニュアル[2-8住所・郵便番号マスタ管理①]を参照してください。



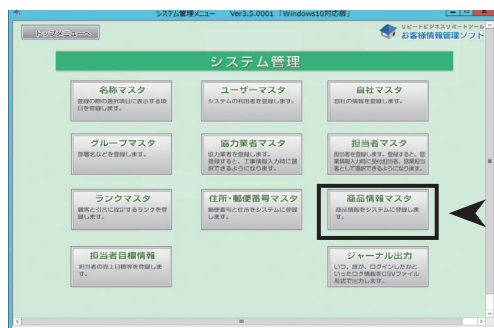
6-8 【協力業者マスタ】をクリックして、協力業者を登録します。

ここで登録する協力業者は、工事を担当した協力業者を管理する、物件情報の協力業者情報に使用します。



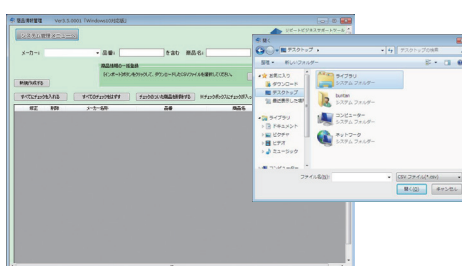
← 協力業者の登録方法について。

協力業者の登録方法につきましては、操作マニュアル[2-5協力業者マスタ管理]を参照してください。



6-9 【商品情報マスタ】をクリックして商品情報を登録します。

ここで登録する商品情報は、工事で使用した商品情報を管理する、物件情報の器具情報に使用します。



← 商品情報の登録方法について。

商品情報の登録方法につきましては、操作マニュアル[2-9商品情報マスタ管理①]を参照してください。

『顧客データベース管理システム2000』から顧客データを移行される場合は、インストールCD-ROM内にある「操作マニュアル」の[5-1 TOTO顧客データベース管理システム2000からの移行に関して]をご確認ください。

※『顧客データベース管理システム2000』や他のシステムからのデータ移行について、「リモデプロモーションセンター」によるサポートは既に終了しております。データ移行を行う際はご自身の責任において実施いただきますようお願いいたします。

コンピュータ名の確認方法



[スタート]を右クリックして[システム]を選択します。



[コンピュータ名]の項目で、[フル コンピュータ名]の項目に表示されている値がコンピュータ名となります。